

第8章 将来社会のイメージとこれからの生き方

これまでの生き方について肯定的に捉えている人が多い。しかし、支出の自由度については見方が分かれる。自分の時間の自由度は多数が満足しているものの、世帯形成とともにタイムパフォーマンスを意識せざるを得ない状態となっている。これからの社会についてはどのようなイメージをもち、何を大切にしていきたいのかたずねた。

1. 将来社会のイメージ

将来社会のイメージについて、ポジティブなものを6つ、ネガティブなものを4つ取り上げて、それぞれ「大いにあてはまる」から「まったくあてはまらない」のなかからひとつ選んでもらった。

①ポジティブなイメージ

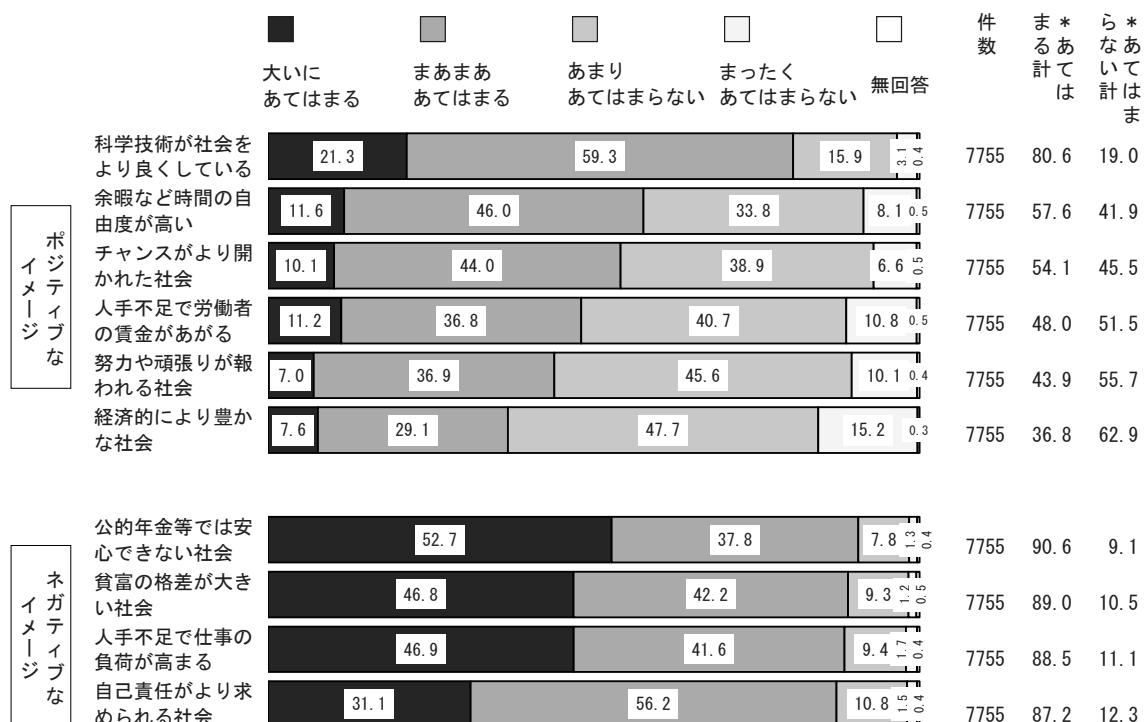
「大いにあてはまる」と「まあまああてはまる」をあわせた＜あてはまる＞をみると、[科学技術の発展が社会をより良くしている] (80.6%) は多数が明るい展望として抱いている。ただし、[余暇など時間の自由度が高まっている] (57.6%)、[チャンスがより開かれた社会となっている] (54.1%)、[人手不足により労働者の賃金があがる] (48.0%) は見方が分かれ、[努力や頑張りが報われる社会となっている] (43.9%)、[経済的により豊かな社会になっている] (36.8%) は半数を下回る（第8－1図）。

科学技術は社会を良くするかもしれないが、それは経済的な豊かさをともなわないと考えられている。

②ネガティブなイメージ

[公的な年金や医療保険だけでは安心できない社会になっている] [貧富の格差が大きい社会となっている] [人手不足により労働者の仕事の負荷が高まる] [自己責任がより求められる社会となっている] を取り上げているが、いずれも＜そう思う＞が9割前後である。このうち「大いにあてはまる」をみると、[公的年金等では安心できない社会] (52.7%) で特に多い。

第8－1図 将来の社会についてのイメージ



ポジティブなイメージ、ネガティブなイメージをあわせてみると、チャンスは必ずしも開かれておらず、努力や頑張りは必ずしも報われないが、自己責任が求められる社会へとようになっていく。また、人手不足の影響も自分たちの賃金があがる可能性が半数程度で意識されているが、同時に、自分たちの仕事の負荷が高まるものとも捉えている。

ネガティブなイメージは、性別年齢別などでみても、いずれも多数が＜そう思う＞としている。

それに対し、ポジティブなイメージは男女とも年齢による違いがみられる。[科学技術が社会をより良くしている]は年齢を問わず＜そう思う＞が多数であるが、それ以外の[余暇など時間の自由度が高い][チャンスがより開かれた社会][人手不足で労働者の賃金があがる][努力や頑張りが報われる社会][経済的により豊かな社会]は若者のなかでも年齢が高くなるにつれて＜そう思う＞が少なくなる。年齢とともに社会に対する希望が失われていくことがはっきりしている。若い年齢層では高卒、高い年齢層では大学卒・大学院修了のウェイトが高いが、学歴別にみても年齢による差が明確にみられる（第8－1表）。

第8－1表 将来の社会についてのイメージ（＜あてはまる＞の比率）

		ポジティブなイメージ						ネガティブなイメージ					件数
		科学技術が社会をよ	余暇など時間の自由	れたチャンスがより開か	賃金が不足で労働者の	努力や頑張りが報わ	経済的により豊かな	公的年金等では安心	社会富の格差が大きい	荷手が不足で仕事の負	自己責任がより求め		
共同調査計		80.6	57.6	54.1	48.0	43.9	36.8	90.6	89.0	88.5	87.2	7755	
男性計		80.1	57.9	54.4	49.9	44.1	39.1	89.8	88.8	88.3	87.0	5561	
年齢別	24歳以下	81.6	64.8	62.1	55.9	53.1	48.3	85.1	84.6	88.7	86.1	966	
	25～29歳	81.4	58.8	56.6	50.3	45.7	39.4	90.7	89.0	87.9	87.1	2155	
	30歳以上	78.2	54.3	49.3	47.1	39.1	35.2	90.9	90.3	88.5	87.3	2440	
女性計		82.3	57.3	53.7	43.3	43.8	30.9	92.7	89.7	88.9	87.8	2136	
年齢別	24歳以下	81.8	62.7	62.7	52.0	54.4	40.9	89.9	87.2	88.6	86.3	533	
	25～29歳	84.2	57.4	53.0	42.9	44.2	30.5	93.9	90.6	89.2	88.6	975	
	30歳以上	79.6	52.4	47.3	36.5	34.2	23.1	93.3	90.3	88.7	87.9	628	
学歴別	高校卒	76.0	58.5	50.5	46.7	45.3	38.3	86.7	85.6	88.6	83.5	2383	
	高専・短大・専門卒	79.6	58.8	52.0	47.8	42.4	36.0	89.9	88.1	88.2	87.7	714	
	大学卒	83.4	56.9	55.9	48.3	43.5	36.0	92.6	90.8	88.5	89.0	3725	
	大学院修了	81.9	57.3	57.0	50.7	43.0	36.4	93.2	91.3	88.5	89.9	901	

5.0 「共同調査計」より5ポイント以上少ない

5.0 「共同調査計」より5ポイント以上多い

15.0 「共同調査計」より15ポイント以上多い

将来社会についてのポジティブなイメージは、[科学技術の発展が社会をより良くしている] 以外は見方が分かれている。ポジティブなイメージのうち、[努力や頑張りが報われる社会となっている] への回答がどのような要素に影響されているのか、二項ロジスティック回帰分析を用いて検討したものが第8-2表である。

[努力や頑張りが報われる社会となっている] について「大いにあてはまる」「まあまああてはまる」と回答したものを1、「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」を0とし、仕事・会社観などの回答が変化することで、「大いにあてはまる」「まあまああてはまる」となる確率がどの程度高まるか（低下するか）がオッズ比（Exp(B)）で示されている。

投入した設問によって [努力や頑張りが報われる社会となっている] への回答をどの程度説明できるか示したNagelkerkeの疑似決定係数は0.14である。投入した設問によって [努力や頑張りが報われる社会となっている] への回答の14%程度が説明できる、ということになる。疑似決定係数としては高くはないものの、意味がないともいえない。

各設問のオッズ比（Exp(B)）をみると、働いている会社が好きであること（1.6倍）、会社との関係では最善を尽くしたいと考えていること（1.3倍）、職場でチャレンジが許容されていること（1.4倍）、職場で周りが支援してくれること（1.3倍）、キャリアを自分で考えることが求められること（1.3倍）、成長のために上司が厳しく指導してくれること（1.3倍）、いまの職業能力が他社で通用すること（1.4倍）といったことが、[努力や頑張りが報われる社会となっている] というイメージをもつことにつながっている。

第8-2表 [努力や頑張りが報われる社会となっている] に関する二項ロジスティック回帰分析

		B	標準誤差	Exp(B)
性別・年齢など	F1 性別（女性=1、男性=0）	-0.052	0.056	0.949
	F2 年齢（24歳以下=1、25～29歳=2、30歳以上=3）	-0.227	0.039	0.797 ***
	F3 学歴（高校卒=1～大学院修了=4）	-0.027	0.025	0.973
	F9 配偶者、F10 子どもの有無 （配偶者はいない=1、配偶者がいる（子どもはいない）=2、子どもがいる=3）	-0.001	0.035	0.999
仕事・会社観	Q1 担当している仕事（業務）のこと （好き、どちらかといえば好き=1、嫌い、どちらかといえば嫌い=0）	0.024	0.074	1.024
	Q2 働いている会社のこと（〃）	0.452	0.076	1.572 ***
	Q3 会社とどのような関係でありたいか（必要最小限の仕事ですませたい、会社に対し特に何も考えていない=1、報いてくれる程度には貢献したい=2、最善を尽くしたい=3）	0.287	0.042	1.333 ***
	Q6A リスクを取ってでもチャレンジを許容する（大いにあてはまる、ある程度あてはまる=1、まったくあてはまらない、あまりあてはまらない=0）	0.353	0.055	1.423 ***
職場の雰囲気	Q6B 反対意見も話しやすい（〃）	0.059	0.060	1.060
	Q6C 困っている時は自然と周りが支援してくれる（〃）	0.266	0.071	1.304 ***
	Q6D キャリアを自分で考えることが求められている（〃）	0.278	0.060	1.320 ***
	Q6E 成長のために上司が厳しく指導してくれる（〃）	0.266	0.054	1.304 ***
成長・能力	Q10 仕事上で成長ができていくか （そう思う、ややそう思う=1、そう思わない、あまりそう思わない=0）	0.207	0.076	1.230 **
	Q12 キャリアの理想となる人が職場の上司・先輩にいますか（います=1、いない=0）	0.202	0.054	1.224 ***
	Q16 いまの職業能力は他社でどの程度通用するか （十分通用する、ある程度する=1、全然通用しない、あまり通用しない=0）	0.370	0.051	1.447 ***
(定数)		-1.868	0.159	***

n=7585 Nagelkerke²=0.14

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

被説明変数は [努力や頑張りが報われる社会となっている] への回答

（大いにあてはまる、まあまああてはまる=1、まったくあてはまらない、あまりあてはまらない=0）

第8-3表は、同様のことについて見方を変えて、希望する会社との関係別に将来社会のイメージをみている。ポジティブなイメージはいずれも「会社発展のために最善を尽くしたい」で多く、「会社に対し特に何も考えていない」で少ない。

職場は生活のすべてではない。しかし、仕事に前向きに向き合えることは、将来社会についてネガティブなイメージを払拭できないとしても、ポジティブなイメージをもつことにはつながっている。

第8-3表 将来の社会についてのイメージ（＜あてはまる＞の比率）

		ポジティブなイメージ						ネガティブなイメージ				件数
		り科 良学 く技 術が 社会 をよ	度余 が高 い等 間の 自由	れチ ヤン スが より 開か	賃人 金が あ足 るで 労働 者の	れ努 力や 社会 頑張 りが 報わ	社経 会済 的により 豊かな	で公 的な 年金 社会 では 安心	社貧 富の 格差 が大 きい	荷人 が手 不足 で仕 事の 負	ら自 己責 任が より 求め	
共同調査計		80.6	57.6	54.1	48.0	43.9	36.8	90.6	89.0	88.5	87.2	7755
会社との関係	会社発展のために最善を尽くしたい	86.2	66.0	67.0	56.4	58.8	46.7	91.0	87.6	88.4	88.7	1746
	報いてくれる程度には貢献したい	82.2	58.1	53.4	47.7	42.4	36.0	91.3	89.9	89.2	87.9	4514
	必要最小限の仕事ですませたい	70.6	47.6	42.5	39.7	32.2	28.8	88.7	88.9	88.5	86.0	992
	会社に対し特に何も考えていない	67.3	43.6	37.4	38.0	28.0	23.9	86.5	86.1	82.2	78.5	489

5.0「共同調査計」より5ポイント以上少ない

5.0「共同調査計」より5ポイント以上多い

15.0「共同調査計」より15ポイント以上多い

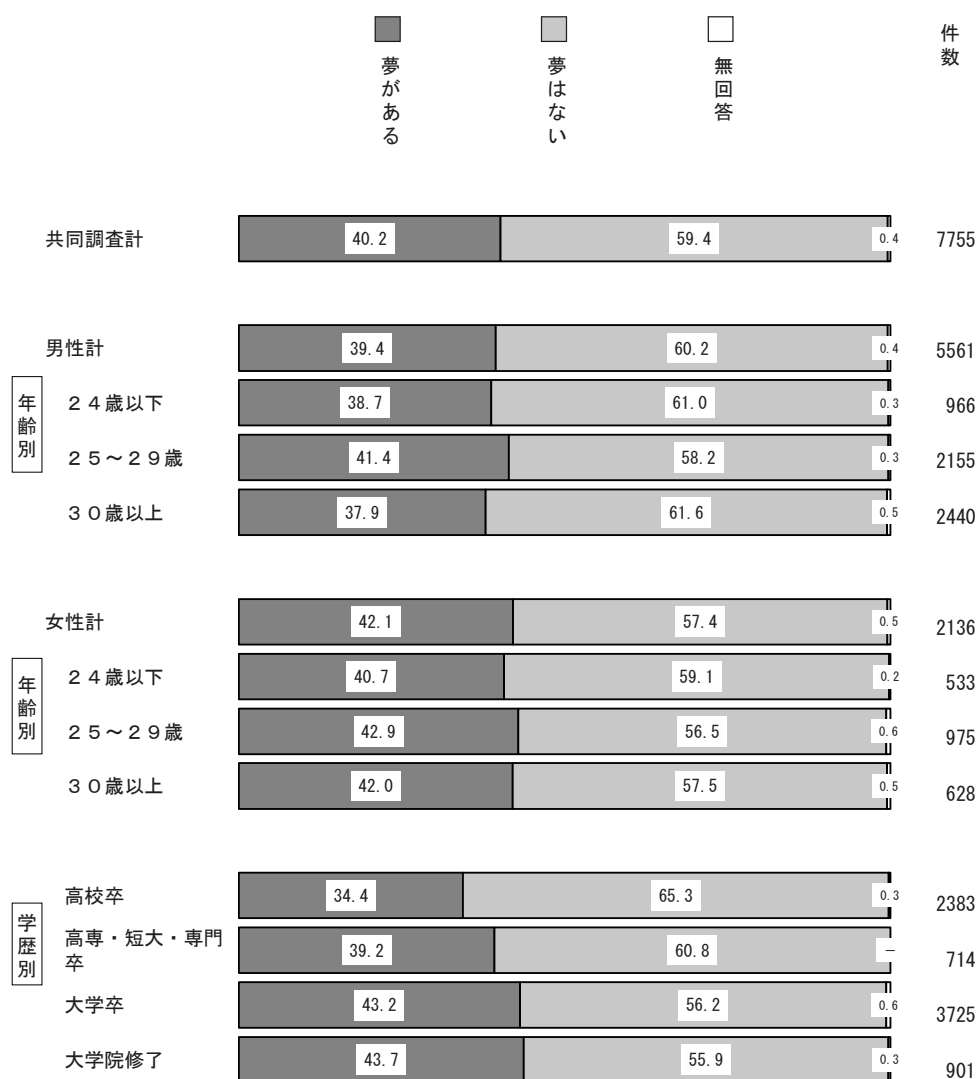
2. 「夢」

(1) 「夢」があるかどうか

将来社会についてはポジティブなイメージは弱く、ネガティブなイメージが強い。自分自身の将来はどうだろうか。この調査では「夢」があるかどうかをたずねている。

「夢がある」は40.2%、「夢はない」が59.4%である。どちらかといえば「夢」をもっていない人のほうが多い。性別年齢別にみても同様である（第8－2図）。

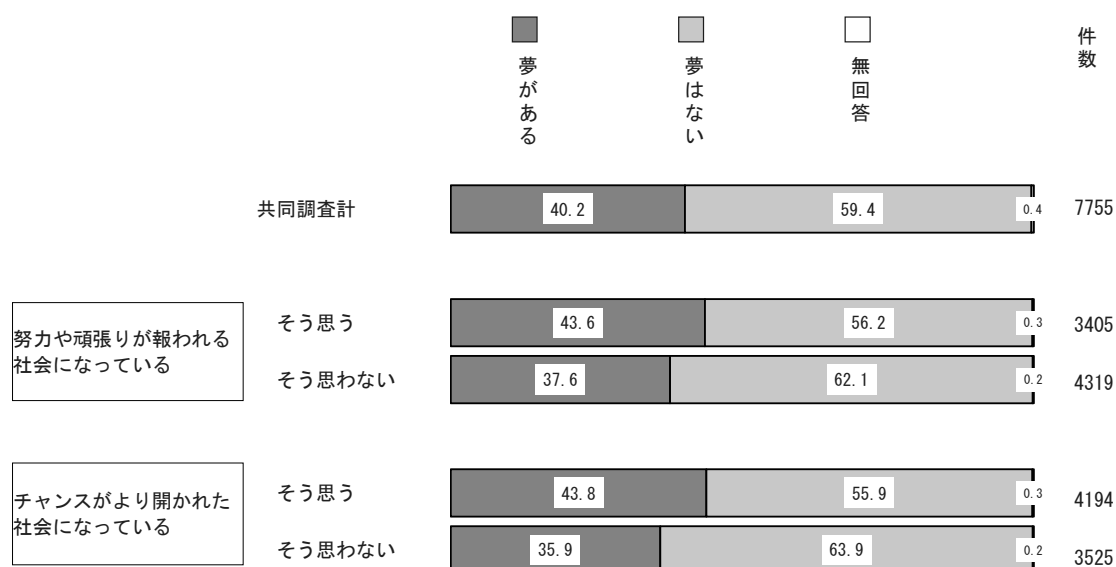
第8－2図 「夢」があるか



ところで、1. 将来社会のイメージでみているように、[努力や頑張りが報われる社会となっている] [チャンスがより開かれた社会となっている] という前向きな見方は半数前後にとどまる。これらの将来社会のイメージと夢の有無との関係をみたものが第8-3図である。

[努力や頑張りが報われる社会になっている] の回答別に「夢がある」をみると、<そう思う>で43.6%、<そう思わない>で37.6%である。努力や頑張りが報われると考えているほうが「夢がある」が多いものの極端な差とはいえない。むしろ、<そう思う>でも「夢がある」は半数を下回るし、<そう思わない>であっても3人に1人は夢をもっている。[チャンスがより開かれた社会となっている] も同様である。

第8-3図 「夢」があるか



(2) 「夢」の内容

「夢がある」と回答した人（全回答者の40.2%、3,115人）には、“現在、どのような夢をもっていますか。差し障りのない範囲で構いませんので、以下の欄に自由に記入してください”とたずね、記入をお願いしている。

記入欄には2,133人からの回答が得られた。分析にあたっては語の除外（例えば「夢」のようにこの設問では特徴のない語、「思う」などの一般的な語）、複合語の抽出（例えば「海外」と「旅行」をあわせた「海外旅行」）を行っている。分析の対象とした語の総数は11,377（延べ出現回数）で、出てきた語の種類数は2,181である（第8-4表）⁴。

第8-4表 「夢」の内容への記述状況と分析対象とした語の数

語の取捨選択後			
抽出語（使用）	23,692 (11,745)	23,112 (11,377)	
異なり語数（使用）	2,544 (2,161)	2,565 (2,181)	
文	2,485	-	
段落	2,342	-	
H5	2,133	-	

抽出された語のうち出現回数の上位を示したものが第8-5表である（出現15以上の語を掲載。文書数によるカウントとしているので15人以上が記載した語である）。出現が最も多い語は「家庭」で、「子ども」「幸せ」「自分」「生活」「仕事」と続いている。

第8-5表 「夢」の内容 頻出語（出現数 15 以上）

抽出語	文書数 (h5)	抽出語	文書数 (h5)	抽出語	文書数 (h5)	抽出語	文書数 (h5)	抽出語	文書数 (h5)	抽出語	文書数 (h5)
家庭	247	働く	63	自由	40	経済的	24	日本	18	活動	15
子ども	207	健康	61	老後	39	車	24	平和	18	感じる	15
幸せ	206	行く	59	成長	38	職場	24	暮らせる	18	教育	15
自分	185	会社	55	余裕	38	ある程度	23	両立	18	携わる	15
生活	180	作る	55	収入	36	稼ぐ	23	プライベート	17	取る	15
仕事	157	好き	53	貢献	34	考える	23	活躍	17	副業	15
家族	145	人生	51	良い	33	増やす	23	教員	17	理想	15
持つ	133	旅行	50	暮らし	31	実現	22	一軒家	16	旅	15
家	101	マイホーム	49	今	30	住む	22	影響	16		
暮らす	96	社会	49	死ぬ	30	お金持ち	21	行う	16		
築く	92	安定	48	将来	30	資格	21	手	16		
お金	80	不自由	48	世界	28	早期退職	20	笑顔	16		
結婚	80	買う	46	資産	27	大切	20	人間	16		
生きる	80	海外	42	困る	26	経営	19	普通	16		
建てる	71	楽しい	42	充実	26	周り	19	与える	16		
過ごす	69	環境	40	育てる	25	海外旅行	18	キャリア	15		
趣味	68	時間	40	購入	25	転職	18	穏やか	15		

4. 本節での分析にあたっては樋口耕一氏が開発した KH Coder を活用している。

（３）記入内容のカテゴリー

頻出語をみると、「家庭」「子ども」「結婚」「家」といった世帯形成に関連した語が多く、これらの他に「仕事」「働く」「会社」などの仕事に関すること、「お金」「収入」「資産」などの財産に関することなどがみられる。共起ネットワークを使うと出現している語同士のつながりをもとに記入の内容をカテゴライズすることができる。線でつながっているものは、同じ記入のなかに出現することが相対的に多いものであり、係数は同時に出現している度合いを示している（Jaccard係数。最大は１、最小は０である）（第８－４図）。

８のカテゴリーができていますが、順にみると、主なものは以下のように整理できる（出現数20以上を分析の対象としている）。

①安定が「夢」（01）

01：「お金」に「不自由」せず「時間」に「余裕」がある生き方

記入の多いカテゴリーのひとつが「お金」「時間」に関連した夢である。「お金」に「不自由」せず、「時間」にも「余裕」があるような生活を「夢」として描いている。「早期退職」もこの安定のカテゴリーに位置づいている。何かに挑戦したい、やり遂げたいというよりも、「安定」を求める志向である。

②結婚して家庭をつくることが「夢」（02、04、08）

02：「結婚」し「幸せ」な「家庭」を「築く」

04：「家」を「建てる」

08：「子ども」を「育てる」

いずれのカテゴリーもライフステージに関連したものである。「結婚」し、「子ども」を育てること、また、家族が生活する「家」をもつことは、当たり前にはできることではなく、「夢」としても位置づけられている。

③「会社」が「夢」の舞台（03）

03：「会社」「職場」で「働く」ことを通じて「社会」に「貢献」

「会社」「職場」を「夢」の舞台とするカテゴリーである。この「夢」は「会社」にとどまらず、「社会」にもつながっている。ただし、①②の安定、世帯形成と比べると少ない。

④生き方（05、06）

05：「仕事」「趣味」を「自分」らしく

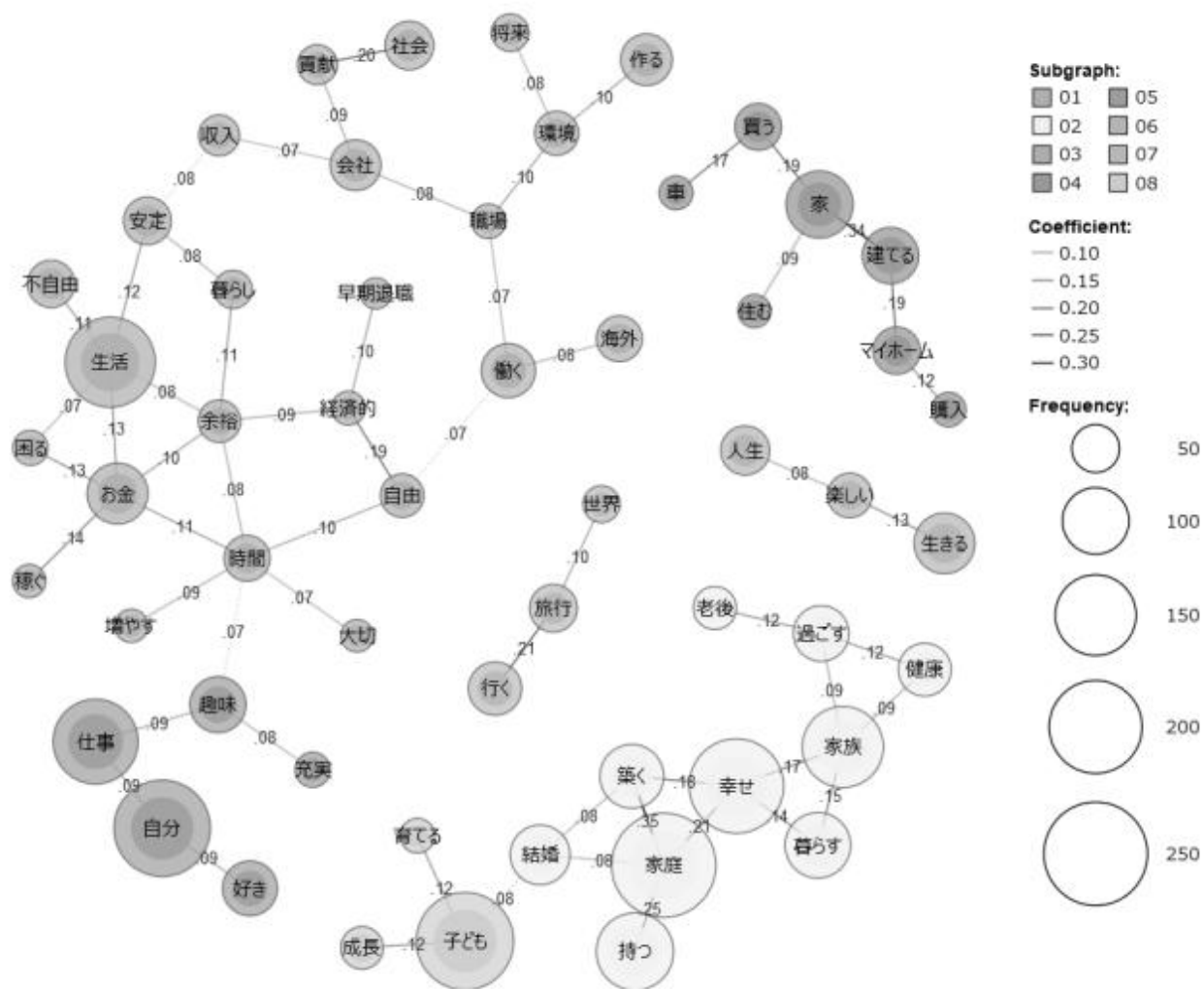
06：「楽しく」「生きる」

「仕事」「趣味」など様々な場面で「自分」らしく生きていけることも「夢」となっている。「楽しく」というのも「夢」として記入されている。

⑤「世界」「旅行」（07）

趣味には様々なものがあるが「世界」「旅行」は一定数の記入があり、ひとつのカテゴリーとなっている。

第8-4 図 「夢」の内容に関する共起ネットワーク



(4) 性別・年齢と「夢」との関係

「夢」の内容は性別などの属性による特徴もある。対応分析を用い、性別・年齢との関係をみたものが**第8－5図**である。対応分析は投入する区分（ここでは性別・年齢）に特徴的に現れる語をみていく分析手法であり、原点（0，0）付近には、区分との間に特徴がない語、原点から離れるほど区分に特徴的な語が配置される。この図では、原点付近には「暮らし」「生活」「マイホーム」という語があるが、これは性別や年齢の偏りなく記入されている。横軸（成分1）は年齢で、右にいくほど年齢の高い人が記入している語、縦軸（成分2）は性別で、下は男性、上は女性がより記入している語である。ただし、女性は24歳以下、25～29歳以下、30歳以上の順に、縦方向にも原点から離れていっている。縦の成分2は、上に行くほど、女性のなかでも、年齢がより高い層と結びついている語である。

24歳以下などのより若い年齢層：「結婚」など世帯形成が「夢」

「結婚」「家庭」といった語がみられる。24歳以下などのより若い年齢層は独身者が多いことを反映し、世帯形成が「夢」として位置づいている。これに加えて男性の場合には、「安定」「余裕」とともに「買う」のような消費に関連した語もみられる。

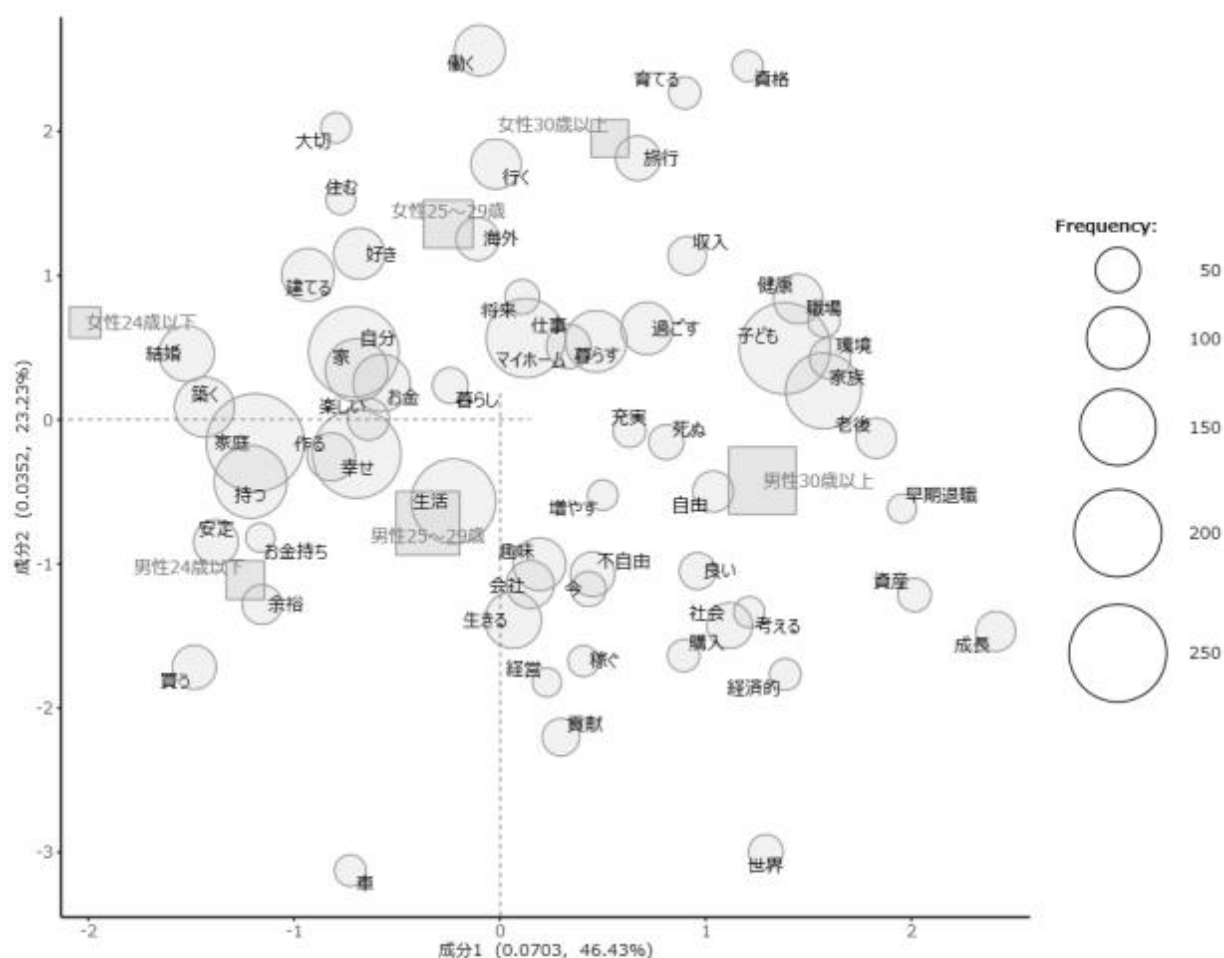
30歳以上などのより高い年齢層：

男性は「早期退職」など老後、女性は「資格」「旅行」など引退前の生活の充実

男性の場合、横軸の右方向に特徴的な語が現れている。「家族」「子ども」といった家庭のことに加えて、「早期退職」「老後」「資産」といった語がみられる。また、原点よりも右側に「死ぬ」という語もみられるが、これは「お金に困らず死ぬまで生活したい」などで、仕事からの引退後の生活に関連した記入である。老後の生活に経済的な見通しを立てられることが男性のより高い年齢層の記入の特徴である。

女性の場合は、縦軸の上方向に特徴的な語が現れている。男性と同様、「育てる」のような家庭に関連した語もみられるが、同時に、「旅行」「資格」「働く」といった語も女性のより高い年齢層と結びついている。男性は仕事の引退と「夢」が結びつくのに対し、女性はより現在に近い仕事、生活の充実と「夢」が結びついている。

第 8-5 図 夢に関する対応分析 (性別・年齢との関係)



(5) 将来社会のイメージと「夢」との関係（「チャンスがより開かれた社会になる」との関係）

対応分析は性別・年齢以外の設問との関連も検討することができる。1. 将来社会のイメージで取り上げたように、将来社会についてのネガティブな見方が半数近くを占める。しかし、将来社会への見方と「夢」の有無はあまり関係がない。ここで取り上げた「夢」の内容と将来社会のイメージ〔チャンスがより開かれた社会になる〕との関連をみたものが第8－6図である。なお、「夢」の内容は性別で違いがあるため、〔チャンスがより開かれた社会になる〕への回答と、性別とを組み合わせた4区分と「夢」の内容との関係をみている。

性別・年齢との関係をみた対応分析と同様に原点付近には、「暮らす」「子ども」「家」「仕事」といった語がある。これらは将来社会のイメージとはあまり関係なく記入がある。原点からの広がりを見ると、横軸は、右のほうに男性、左のほうに女性が位置している。左右には性別で特徴的な語が表れている。縦軸は、原点より右上に男性の[チャンスがより開かれた社会になる]、右下に[チャンスがより開かれた社会にならない]が位置している。女性は[チャンス…]の回答がいずれでも同じような場所に位置している。男性は将来社会のイメージにより「夢」の内容が変わってくるのに対し、女性は男性ほどには変わらない。

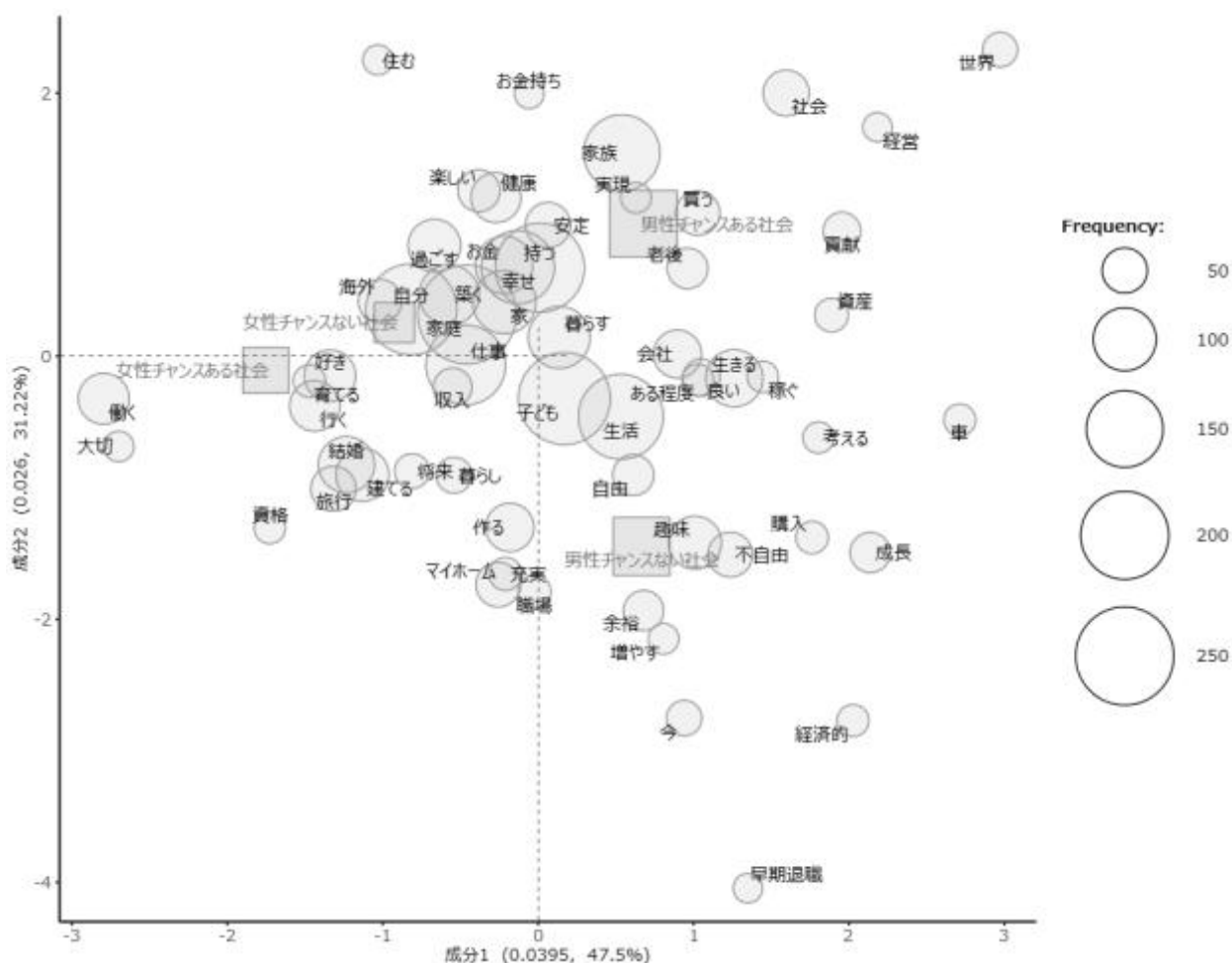
①男性で「チャンスがより開かれた社会になる」：「経営」そして、「社会」「世界」に広がる

原点から右上にいくほど男性で「チャンスがより開かれた社会になる」と回答した人に特徴的な語である。「経営」「社会」「世界」、そして、「貢献」といった語がみられる。会社のこと、社会のことなど、自分事を超えた内容の「夢」と結びついている。

②男性で「チャンスがより開かれた社会にならない」：「夢」は「早期退職」

原点から右下にいくほど男性で「チャンスがより開かれた社会にならない」と回答した人に特徴的な語である。「早期退職」「経済的」「不自由」「趣味」といった語がみられる。「早期退職」は引退前の成功によって成り立つというよりも、チャンスのない世界からの早めの引退という意味合いをもっている。また、「経済的」「不自由」といった語もチャンスがないなかで、なるべく自由を得たいという意味合いのもと書かれているものと理解できる。

第 8-6 図 夢に関する対応分析（将来社会のイメージ「チャンスがより開かれた社会になる」との関係）



3. これからの生き方で大切なこと

これからの生き方で大切にしたいことについて第8－7図にある7つを取り上げてたずねた。

①人との関係

「悩みを相談できる友人・知人をもつ」は「とても重要」が65.1%で、これに「ある程度重要」をあわせて＜重要である＞は95.4%である。「お互いさまの精神をもって助け合う」も同様で、＜重要である＞が96.2%を占める。人との関係を大切に思う気持ちは多数に共有されている。

②社会との関係

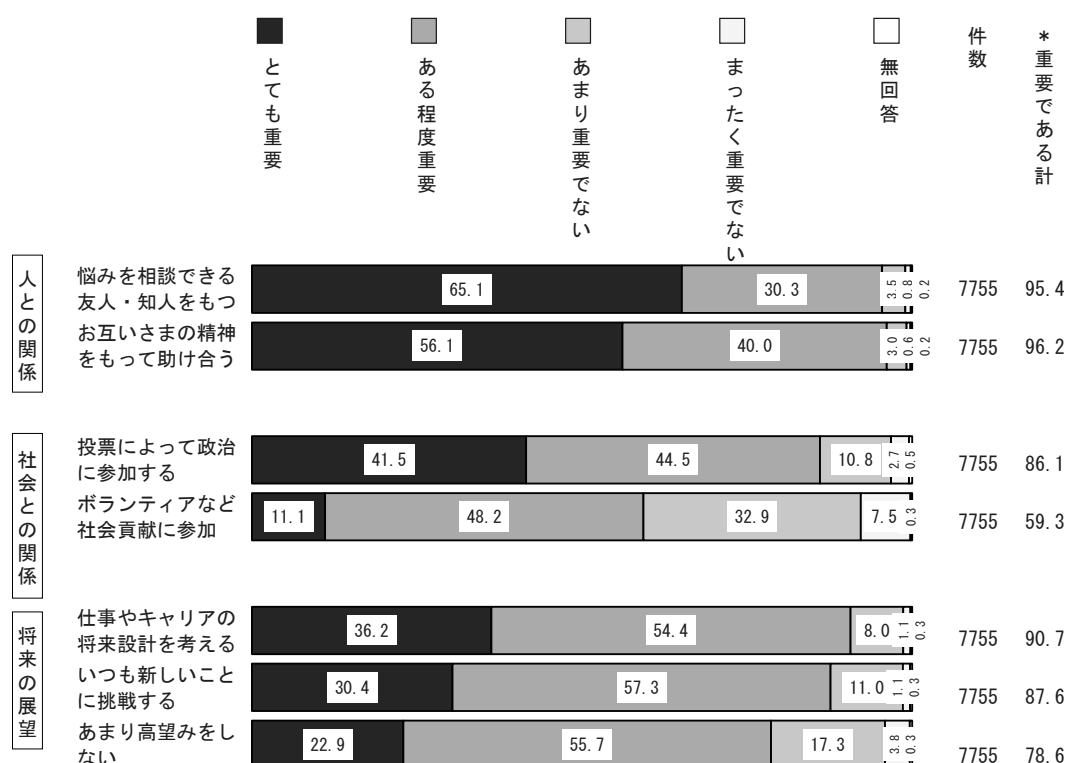
「投票によって政治に参加する」は「とても重要」が41.5%、これに「ある程度重要」をあわせて＜重要である＞は86.1%である。投票による政治参加を多数が重要と考えている。また、「ボランティアなど社会貢献活動に参加する」の「とても重要」(11.1%)は少ないが、「ある程度重要」をあわせれば半数を超える59.3%が＜重要である＞と考えている。

③将来の展望

「仕事やキャリアの将来設計を考える」は「とても重要」が36.2%であるが、これも「ある程度重要」をあわせて＜重要である＞は90.7%である。「いつも新しいことに挑戦する」も「とても重要」は30.4%であるが、＜重要である＞が87.6%と多い。

このように将来を考えること、挑戦することを多数が大切にしているが、一方で、「あまり高望みをしない」についても＜重要である＞が78.6%を占める。将来について考えることは重視されているが、同時に、希望の程度を抑制する意識も働いている。

第8－7図 これからの生き方で大切にしたいこと



これからの生き方で大切にしたいことは年齢による違いがみられる。「とても重要」をみると、[投票によって政治に参加する] 以外はいずれも年齢とともに「とても重要」が少なくなる傾向がある。学校を卒業して働きはじめた時点では、人との関係を大切に、また、将来について考えることを重要なものとして捉えているが、働きはじめてからの期間が長くなるとともに、そのような思いは萎んでいく（第8－6表）。

第8－6表 これからの生き方で大切にしたいこと（「とても重要」＜重要である＞の比率）

		＜重要である＞計の比率														件数
		「とても重要」の比率														
		人との関係		社会との関係		将来の展望			人との関係		社会との関係		将来の展望			
人 悩 み 知 を 相 談 で 可 い 友	も お 互 い を 助 け 合 う 精 神 を	参 加 す る に よ っ て 政 治 に	会 貢 献 に 参 加 ア な ど 社	来 設 計 を 考 え る の 将	挑 戦 す る 新 し い こ と に	い あ ま り 高 望 み を し な	人 悩 み 知 を 相 談 で 可 い 友	も お 互 い を 助 け 合 う 精 神 を	参 加 す る に よ っ て 政 治 に	会 貢 献 に 参 加 ア な ど 社	来 設 計 を 考 え る の 将	挑 戦 す る 新 し い こ と に	い あ ま り 高 望 み を し な			
共同調査計		65.1	56.1	41.5	11.1	36.2	30.4	22.9	95.4	96.2	86.1	59.3	90.7	87.6	78.6	7755
男性計		63.0	55.0	41.3	11.4	36.3	32.0	24.2	95.0	96.0	85.3	57.1	90.1	88.2	77.7	5561
年 齢 別	2 4 歳以下	74.0	60.5	43.2	18.2	42.4	38.3	30.0	96.7	97.1	84.6	67.7	91.3	90.6	80.1	966
	2 5 ～ 2 9 歳	64.5	56.6	42.6	10.9	37.3	32.1	22.0	95.8	96.1	87.1	56.2	91.0	88.4	77.1	2155
	3 0 歳以上	57.2	51.5	39.5	9.1	33.1	29.3	23.9	93.5	95.4	84.0	53.6	88.8	87.0	77.2	2440
女性計		71.1	59.2	42.0	10.3	36.2	26.2	19.7	96.9	97.1	88.2	65.1	92.6	86.7	81.4	2136
年 齢 別	2 4 歳以下	73.2	62.3	37.5	14.6	38.6	26.6	22.0	98.5	97.2	88.4	75.2	93.1	85.9	80.9	533
	2 5 ～ 2 9 歳	75.1	61.1	42.3	9.2	38.4	27.1	19.3	96.7	96.7	87.7	63.6	93.0	87.2	81.7	975
	3 0 歳以上	63.1	53.7	45.5	8.1	30.7	24.4	18.3	95.7	97.5	88.9	58.8	91.4	86.5	81.4	628
学 歴 別	高校卒	64.4	55.5	41.0	13.6	33.4	28.1	26.1	95.0	96.8	85.6	65.0	89.1	87.4	81.2	2383
	高専・短大・専門卒	62.2	52.7	38.4	9.4	33.2	30.7	22.8	94.5	94.7	84.7	56.0	87.4	84.3	79.1	714
	大学卒	67.2	58.6	42.7	11.1	38.8	31.0	21.5	96.3	96.2	86.7	59.7	92.6	88.3	77.9	3725
	大学院修了	61.2	50.5	40.6	5.5	35.8	32.9	20.4	94.2	95.7	85.5	44.7	90.0	88.2	74.4	901

5.0 「共同調査計」より5ポイント以上少ない

5.0 「共同調査計」より5ポイント以上多い

15.0 「共同調査計」より15ポイント以上多い